

他人ごとじゃない、自分ごと。

防災週間



いつ来てもおかしくない
50年に一度の自然の猛威に
あなたは対応できますか？

自分の命は自分で守る。

カセットコンロ



何かと役に立つ
カセットコンロは予備ボンベと一緒にぜひ準備を。

飲料水



飲用として大人
1人につき1日
2-3リットルが目安。
1週間分の21
リットルを備蓄しておくことが理想。

災害時に
役立つ品
役立蓄品

(一例)

防災週間 私達ができること

9月1日は「防災の日」です。
「防災の日」は、大正12年9月

1日に発生した関東大震災により大きな被害を受けたことが由来となり、昭和35年に制定されました。昭和57年から、9月1日を含む1週間を「防災週間」として、防災に関する行事や訓練が各機関で実施されています。

防災という言葉を聞いて、私たちが真っ先に思い浮かべるのは、平成23年3月11日の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故でしょう。また、2年前の平成27年9月10日には、関東・東北豪雨が町を襲いました。

災害を受けるたびに私たちは、防災への備えをしっかりとしようと決意したはずですが、しかし、災害が無い日々が続くと、どうしても災害への備えがそろそそにながちです。

そのような中、全国を見渡すと、特に今の時期は、50年に一度と言われる大雨が各地で毎週のように観測されたり、台風で甚大な被害が出るなど、いつどこでなにが起きてもおかしくない



いざというとき、自分の命を一番に考えられますか。

「自分の命は自分で守る」 それが基本になります。

伊達地方消防組合中央消防署

南分署長 桑島 佳則 さん

災害対応のプロに聞く
万が一に備える心構え

全国的に自然災害が多発しています。川俣町でもいつ災害が発生してもおかしくない状況です。この時期、考えられるのは大雨による災害です。みなさんができる対策としては、側溝の流れを良くしておく、土のうを用意する、万が一の孤立に備え、非常食の準備をしておくなどが挙げられます。実際に災害が発生しそうな状況になったり、町から避難準備・高齢者等避難開始の情報が出されたら、まずは避難所へ避難することを考えてください。

特に、避難に時間を要する方がいる場合は早めに避難行動を開始してください。災害時は自分の命は自分で守る・何とかするという「自助」が基本です。中には、「俺はこの家からは一步も出ないぞ」という方もいますが、何より大切なのは命ですから、危険な場合は、自分の命を守る行動を速やかにとってください。また、大災害発生時、救助隊が全ての現場にすぐに到着するということはあまり期待できません。むしろ、頼りになるのは家族や隣人で助け合う「共助」です。みなさんも「救助される人」でなく「救助する人」になるのが理想です。「救助する人」の多い地域は、災害に強い地域とも言えます。みなさん一人ひとりが、災害への正しい知識と判断力を持つことで、災害に強い町にしていきたいと思います。



～関東・東北豪雨（H27.9.10）記録～

今から2年前、町に降った大雨は、たった一日で町の各所に大きな爪痕を残した。私たちはこの日を忘れてはならない。



マッチ

ろうそくへの
点火や、
万が一のコンロの
点火不良に備えてマッチ
数箱がライター数本を。



携帯ラジオ

情報収集用に1台あると便利なラジオ。電池式の場合は、予備の電池も忘れずに。懐中電灯や窓割ハンマーなど他の道具と一体になった便利ラジオも人気。

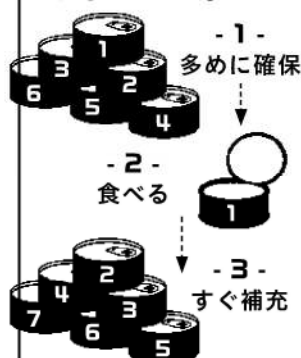


食料品

アルファ米やレトルト食品、缶詰など1人3日分が目安。ローリングストックがオススメ。

Bosai-Check!!

知っておこう、ローリングストック



いつも食べているものを多めに確保して、賞味期限の近いものから消費し、その都度、補充して備蓄する方法をローリングストックと呼びます。食べ慣れた食品を気軽に備蓄できるメリットがあり、ポイントは①古いものから消費すること、②使ったら必ず補充することの2点です。食料品のほか、ガスボンベやウエットティッシュなどもこの方法と一緒に備蓄しておくで安心です。

ような状況です。
「防災の日」と「防災週間」は、私たち一人ひとりが災害について認識を深め、これに対処する備えを充実、強化することで、災害の発生防止や、災害による被害をできるだけ少なくすることを目的としています。この「防災週間」を、改めてみなさんが防災について考え、家族で、地域で、職場で話し合ってみるきっかけにしませんか。そして、災害への備えを、できることから、もう一度始めてみませんか。